

まめんなかえプロジェクト

鳥取看護大学 田中響

1. 企画

【場をつくる】

・まちの保健室の運営

運営主体 鳥取看護大学→倉吉市の各関係機関との連携→ボランティア→地域住民
第1次予防として、生活支援、介護予防を目的に！

13 地区公民館

倉吉市ならではの「まちの保健室」を企画運営する。たとえば、認知症タッチパネル、骨密度、ロコモティブシンドローム予防、嚥下障害・口腔ケア、検診率アップのための健康相談など・・・

【ひとを育てる】

・まめんなかえ師範塾

鳥取看護大学、鳥取短期大学による生涯学習

15時間授業を開催し、単位取得を目指す。毎年、30人程度。

例えば、「からだのしくみ」「こころのしくみ」「人が生きること」「地域の健康」

「まちの保健室」「食生活」「運動のすすめ」「休息のすすめ」「リーダーシップとは」

「研修の企画運営評価方法」「子育てサポーター育成」「まちの保健室実習」など

単位取得すれば、「まめんなかえ師範塾」の看板をあげることができ、地域からの様々な要望や相談に応じることができる。イメージとして、「子ども110番」のような「健康110番」の普及。

「まちの保健室」運営のためのリーダーやコーディネーターができる。

倉吉市から、「まめんなかえ師範免許状」を授与、「まめんなかえ師範塾」看板を配布

・「まちの保健室」ボランティア登録

ボランティア登録システムを構築。

3年、5年、10年と活躍したボランティアを表彰する。

2. ターゲット

倉吉市でいつまでも元気で暮らす。「ほぼ在宅、時々入院」をキーワードに地域住民が自らの健康を維持し、地域全体を元気にしていく。地域住民をターゲットに。倉吉市を終の棲家に。

3. 運営のための協力

場所の確保、機器の準備、マンパワーの確保 →費用、関係機関の連携・協力

コンセプト

”ほぼ在宅、時々入院”

特徴

健康寿命を延ばす。

コミュニティの力による第一次予防。